



2006・春
発行：法問寺
題字：鈴木裕子

お彼岸

春 春分の日を中日とする七日間

太陽が真東から出て真西に沈む春分の日と秋分の日が沈んでいく太陽を通して、そのかなたにある西方浄土を思い浮かべる。「日想観（にっそうかん）」という修行を行うのに適したとされます。お彼岸には極楽浄土を想い浮かべ先祖を偲び自分の今あることを先祖に感謝して、供養の法要や墓参りをするのが大切です。この七日間は自らも「さこのりの世界」に渡ることが出来るように信仰の実践をおすすめします。



◆新客殿建築完成報告◆

昨年の十夜法要で檀信徒の皆様新しい客殿をご披露させていただきましたが、ほとんどにおかげさまで庫裏客殿が完成いたしました。建築終了後境内の整備も含めほとんど終了というところですが、現在は旧裏門周りを徐々に整備しつつあります。最終的に

は「永代供養墓」を完成させて全域が整備されることとなります。まだまだ足元が悪い場所も有りますのでご参詣時にはお気をつけ頂きたいと思えます。客殿寄附勸募についても本年三月で一度閉め、勸募報告をさせていただく所存です。

法問寺 花だより 鈴木裕子

「三寒四温」という言葉のとおり、めまぐるしく春の陽気、冬に逆戻り・・・と繰り返される今日この頃。でも、確実に春はそこまですてきているのをしみじみ感じますね。今年の冬は寒く冷たかったという感もあり、一月下旬にはかなりまとまった雪も降りました。雪かきは大変な作業ですが、でも、雪化粧した客殿裏の庭はともきれいでした。写真は本堂脇の山茶花です。緑の葉赤い花、そして白い雪というコントラストがとてもきれいでした。そして、裏庭に入った、白梅、初めての見事な花を咲かせています。



玄関脇の紅梅は亡き母を偲んで植えたものですが、毎年、かわいい花をつけてくれています。そして、水仙もいい香りともにかわいい花を次々と咲かせています。これから、徐々に昨年から植え



つけてきた様々な草木たちがうまく育ってくれていれば、花をつけていく



れます。期待でワクワク、心配でドキドキの四季になりそうです。是非、みなさんもお墓参りの折には「今は何の花があるかな？」と周りを見回してみてくださいね

☆任職の奉仕活動報告その他

- 一月十四日 浄土宗東京教区北部組災害対策委員会本所防災館見学随行
- 二月二十三日 浄土宗東京教区普通講習会（増上寺会場）にて北部組寺院での防災活動を発表

★十七年九月～十八年二月までの訃報★

- 九月十四日 内久根富子様 七十三歳 富譽慈恩信女
- 十一月十八日 鈴木 光様 八十五歳 光順安和信士
- 十二月二十四日 小沢熊蔵様 七十五歳 能修玄照信士
- 十二月三十日 岡花千代様 八十二歳 千妙蓮随信女
- 十二月六日 海老原久子様 七十七歳 久遠妙福信女
- 十二月十五日 加藤勝人様 六十九歳 奉徳院誠譽勝覚居士
- 十二月二十日 水谷健三様 七十九歳

穩譽健實和道信士

- 一月三日 寂 島田江身子様 七十八歳 嘉徳院江譽美珠大姉
- 一月九日 寂 石山きくの様 九十歳 喜悦久光信女
- 一月十八日 寂 田島喜四郎様 八十二歳 靖譽喜雲信士
- 二月八日 寂 渋谷源八様 八十一歳 覚譽源道信士

今年の年回表

- 一周忌 平成十七年 寂 ・ 三回忌 平成十八年 寂
- 七回忌 平成十七年 寂 ・ 十二回忌 平成十六年 寂
- 十七回忌 平成十七年 寂 ・ 二十回忌 平成十九年 寂
- 二十五回忌 昭和五十七年 寂 ・ 三十回忌 昭和五十五年 寂
- 三十三回忌 昭和四十九年 寂 ・ 三十七回忌 昭和四十五年 寂

◆編集後記 住職

昨年はお檀家で亡くなった方が大変多い年になってしまいました。過去帳をみても今迄が一番多い記入をする事になってしまいました。人生高年齢化といわれていますが、寿命という言葉を再認識させられます。自分自身の寿命ってあとのかなりのあるのかなと思うと、人生の折り返しを既に終わっているようです。自分の生涯で合つことのできる人達は大事にしなくてはならないなと思うこの頃です。ご縁があつてこそ触れ合つこと出来る人間関係です、皆さんも周りをよく見て、良くて悪くてもご縁がある人間関係を大切にして下さい。

南無南無

新客殿新築の記念品をまだお受け取りになっていない方は三月中旬に記念品交換券とお引換下さい。（交換券を無くされた方はその旨をお申し出下さい）